

ギターCD レター from yakateru(第 42 号)

無伴奏のバイオリン組曲、ソナタやパルティータを、リュートの調べで聴く。確かに、本家本元のシュゲッティのバイオリンで聴くのが一番だと言われそうだが、バイオリンで聴くと、とても、肩肘張った姿勢で聴いてしまう。しかし、これをリュートやギターで弾くと、曲の持つ柔らかさが表に出て、とてもなじみやすくなる。

41 号の続きで、今回は、無伴奏バイオリンの編曲シリーズだ！！

リュート、バイオリン、チェロ組曲(2)

41 号で、リュート組曲を 4 曲取り上げた。さて次は、当然無伴奏チェロ組曲の 6 曲の紹介と思うかもしれないが、ワタシ的には、バイオリン組曲が先なのである。

確かに、ギターと音域の感覚が近く、カザルスが再発見した奥深い無伴奏チェロ組曲はすばらしいが、個別の曲を取り上げる限り、バイオリンのソナタやパルティータが上位になる。パルティータ 2 番の終曲がシャコンヌということもあるし、ソナタ 1 番の 2 曲目のフーガがあつた超有名なフーガということもある。しかし、それ以上に、パルティータ第 1 番という組曲全体の存在が大きい。

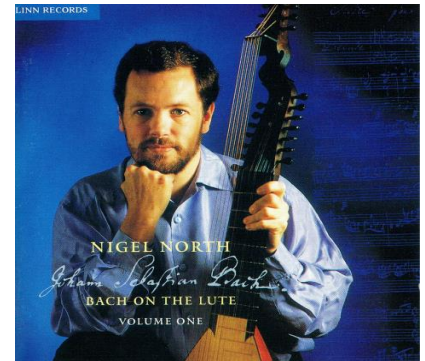
このパルティータ第 1 番のブルーレは、ギターの名曲にもなっている有名なブルーレであるが、その前後の曲が素晴らしいのだ。ブルーレの前のサラバンドとダブルは絶品とっていい。この 2 曲は、それぞれ 3/4 と、9/8 の基本三拍子の曲であるのだが、やったことがないのだが、同時に弾いても、つまり、サラバンドを 2nd とし、ダブルを 1st とした二重奏で弾くともものすごい曲になるのではと思うぐらいの特殊な曲なのだ。ダブルのメロディを、サラバンドの和音が伴奏する。どなたか、1st、あるいは 2nd やってもらって試したいのですが。……

現代ギター1982年7月臨時増刊号の別冊楽譜には、これら 2 つのパルティータと、3 つのソナタが掲載されている。既に紹介したパル

ティータ第 1 番が最高峰だが、シャコンヌの入っているパルティータ第 2 番も当然いい。特に、シャコンヌの前ぶりを受け持つジグは、いろいろな BACH の組曲のジグの中で、一番弾いていて元気をもらえる曲だと思う。曲には 2 種類あつて（というか人間も同様だが）、元気を奪い取る曲（人間）と、元気を与えてくれる曲（人間）がある。曲の場合は、元気を吸い取られる曲でも弾き終わると達成感で一杯になる（元気を吸い取る人間には、近寄らないようにしている）。組曲全体を聴く機会というのはなかなかなく、シャコンヌは単体で聴くことが多いと思うが、アルマンデから始まって、クーラント、サラバンド、ジグとあつという間に流れていくこのパルティータ第 2 番は、全体が、やはりシャコンヌを聴かせるための曲なのだろうと思う。そして、その前ぶりのジグ。同じことを繰り返しているが、素晴らしい曲である。まあでも、最初のテーマの 2 小節以外は、ひたすら 16 部音符がずらずらと並ぶこのジグ。真打のシャコンヌが堂々とあのテーマを奏でるための最高の演出効果を狙っているようで、すごいと思う。

パルティータの 2 曲を紹介した。残りは、ソナタの 1 番、2 番、そして 3 番である（ちなみにパルティータ 3 番もあるが、リュート組曲 4 番のことなので省略する）。

ソナタ 1 番のフーガは、あの有名なフーガであるが、第 2 番、そして第 3 番のフーガ、これらのフ



ーガがすごい。ちなみに、有名な第 1 番のフーガの規模は、小節で言うと 94 小節である。テンポと拍子はほぼ同じなので、小節数と演奏時間は比例すると思うが、ソナタ 3 番のフーガは、なんと 288 小節あり、さらに最後にダルセーニョが掛かるので冒頭に戻ることで 65 小節繰り返すので、計 353 小節も延々と弾くことになる。弾けども弾けども終わらない。楽譜のページをめくれどもめくれども、終わりにならない、そんな曲である。しかし、このフーガのテーマは、「ロンド橋渡ろ！」のどこかで聴いたメロディが主題なので、すごく馴染みがあるが、その展開方法は、どこまで行けども答えが見つからない放浪の旅のようなものだ。

もうひとつのソナタ 2 番のフーガも 298 小節ある。こちらは、拍子が第 1、第 3 の半分の 2/4 であるため、第 3 ほどは長くは感じないが、それでも、壮大な印象はある。

この 3 つのソナタについては、フーガの紹介だけで終わってしまうが、第 1 番のフーガに続くシチリアーナを除くと、他は、結構、影が薄いのではないと思っている。

さて、今日のお勧め CD は、これらの曲を、リュートで演奏したニジュール・ノースの CD である。リュートらしい透明感のある演奏で、かつ、情緒もしっかり表現していて、なかなかいい。(続)

LINN RECORDS

CKD 013

J S BACH

SONATAS & PARTITAS BWV 1001-1006 VOLUME ONE



IN NEW TRANSCRIPTIONS FOR LUTE BY
NIGEL NORTH

MIT DEUTSCHER KOMMENTAR
NOTES EN FRANCAIS

© & © LINN RECORDS 1994

A DIVISION OF LINN PRODUCTS LTD
MADE IN THE UNITED KINGDOM



5 000705 600473

Sonata in G minor

BWV 1001

1. ADAGIO (3.16)
2. FUGA - ALLEGRO (5.28)
3. SICILIANA (2.47)
4. PRESTO (3.20)

Partita in A minor (originally in B minor)

BWV 1002

5. ALLEMANDA - DOUBLE (9.55)
6. CORRENTE - DOUBLE (PRESTO) (5.10)
7. SARABANDE - DOUBLE (4.45)
8. TEMPO DI BOREA - DOUBLE (4.45)

Partita in D minor

BWV 1004

9. ALLEMANDA (5.40)
10. CORRENTE (5.05)
11. SARABANDA (4.11)
12. GIGA (2.51)
13. CIACONNA (14.02)

RECORDED AT ST MARTINS CHURCH
EAST WOODMAY ON

12, 13 & 14 JULY 1995

PRODUCED BY NIGEL NORTH
AND LINDSAY FELL

ENGINEERED BY PHILIP HOBBS

DESIGN : DON FITZPATRICK

PHOTOGRAPHY : HANTA CHELALA